

Economic Indicators

発表日: 2020年11月30日(月)

鉱工業生産指数(2020年10月)

～前月比で高い伸びが続くも先行きの持ち直しのペースは鈍化する見通し～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		鉱工業生産						資本財(除く輸送機械)				消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
19	1月	▲2.3	0.2	▲1.8	▲0.5	▲0.3	1.4	▲1.7	0.4	▲7.2	▲8.5	2.3	3.6
	2月	1.0	▲0.7	1.2	0.0	0.1	1.3	0.1	1.7	4.3	▲3.5	0.4	1.8
	3月	▲0.5	▲4.1	▲1.1	▲3.9	0.7	0.2	1.1	3.5	▲0.9	▲7.8	▲1.6	▲2.1
	4月	▲0.1	▲0.7	0.7	▲1.1	0.0	1.2	▲1.0	1.9	0.0	▲9.1	2.3	2.9
	5月	1.5	▲1.9	0.8	▲1.6	0.4	1.5	1.3	4.5	2.7	▲3.8	▲1.0	0.1
	6月	▲2.6	▲3.9	▲3.2	▲4.9	0.6	3.0	2.2	6.6	▲2.9	▲5.6	▲2.2	▲2.6
	7月	0.7	0.8	2.5	2.1	▲0.1	2.4	▲0.8	0.8	▲0.2	▲3.1	1.5	3.2
	8月	▲1.7	▲5.5	▲2.0	▲5.0	▲0.1	2.4	2.0	8.7	0.0	▲7.7	▲1.1	▲3.0
	9月	1.9	1.2	1.8	2.1	▲0.9	0.9	▲1.7	1.9	8.1	7.5	1.5	2.7
	10月	▲4.0	▲8.2	▲3.5	▲7.6	0.8	2.5	4.0	9.5	▲10.4	▲13.5	▲5.0	▲5.2
	11月	▲0.6	▲8.5	▲1.4	▲8.0	▲0.5	1.5	1.7	12.3	▲6.5	▲15.9	1.0	▲5.0
	12月	0.2	▲3.7	0.2	▲3.8	0.4	1.2	0.5	6.2	9.2	0.6	▲2.4	▲3.7
20	1月	1.9	▲2.4	0.9	▲3.3	2.1	3.6	▲0.3	9.3	▲1.5	0.3	2.7	▲4.1
	2月	▲0.3	▲5.7	1.0	▲5.4	▲1.7	1.6	▲2.3	9.4	1.0	▲5.7	0.3	▲5.9
	3月	▲3.7	▲5.2	▲5.8	▲6.5	1.9	2.9	8.4	12.6	▲9.1	▲9.3	▲4.6	▲5.8
	4月	▲9.8	▲15.0	▲9.5	▲16.6	▲0.3	2.7	13.6	29.2	1.4	▲7.8	▲11.8	▲19.4
	5月	▲8.9	▲26.3	▲8.9	▲26.8	▲2.6	▲0.5	7.3	40.7	▲9.0	▲21.2	▲3.6	▲23.7
	6月	1.9	▲18.2	4.8	▲16.6	▲2.4	▲3.4	▲7.1	22.5	6.7	▲9.1	4.4	▲14.5
	7月	8.7	▲15.5	6.6	▲16.6	▲1.5	▲4.8	▲8.9	17.6	▲1.0	▲14.4	10.1	▲10.4
	8月	1.0	▲13.8	1.5	▲14.2	▲1.3	▲5.9	▲2.0	13.0	▲8.3	▲21.4	0.0	▲10.1
	9月	3.9	▲9.0	3.9	▲9.8	▲0.5	▲5.7	▲4.4	6.7	2.7	▲22.8	5.3	▲4.0
	10月	3.8	▲3.2	4.6	▲3.2	▲1.6	▲7.9	▲3.0	▲0.5	13.4	▲1.8	1.5	1.1
	11月	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12月	▲2.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 20年11月、12月は、製造工業生産予測調査の数値

○世界経済の持ち直しを背景に前月比で5か月連続の上昇、引き続き自動車工業がけん引役に

経済産業省より発表された10月の鉱工業生産指数は前月比+3.8%と5か月連続で上昇した。経済産業省の補正試算値(同+1.4%)や市場予測値(コンセンサス:同+2.4%、レンジ:同+1.5%~同+4.0%)を上回る高い伸びとなった。世界経済の持ち直しが続いていることを背景に、中国、米国向けを中心に輸出が堅調に推移していることなどから、鉱工業生産は高い伸びが続いている。もっとも、新型コロナウイルス感染拡大による落ち込みを取り戻すにはまだ至っておらず、水準としては感染拡大前の20年1月の水準を▲5%程度下回るものとなっている。

内訳をみると、輸出が堅調な自動車工業が前月比+6.8%と引き続き鉱工業生産のけん引役となったほか、汎用・業務用機械工業が同+17.9%、電気・情報通信機械工業が同+8.4%と大幅な伸びとなったことで、鉱工業生産指数は上昇した。一方、持ち直しが続いていた電子部品・デバイス工業が同▲5.2%と減産に転じるなど、マイナスに寄与している。

○挽回生産は一服し11月の持ち直しのペースは鈍化、12月は減産見込み

同時に公表された製造工業生産予測指数では、11月が前月比+2.7%、12月が同▲2.4%となった。

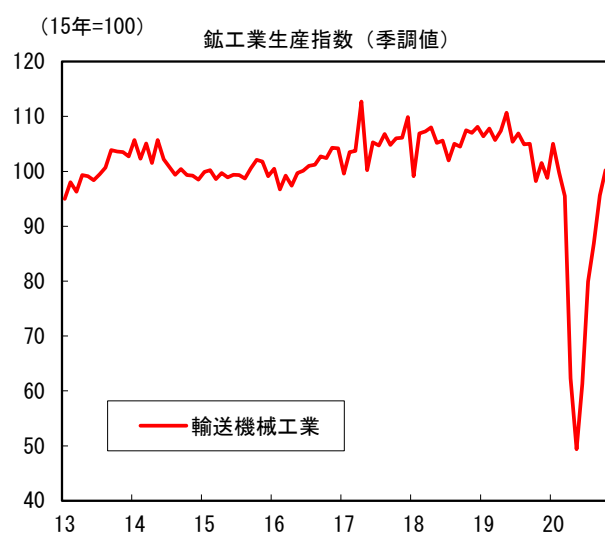
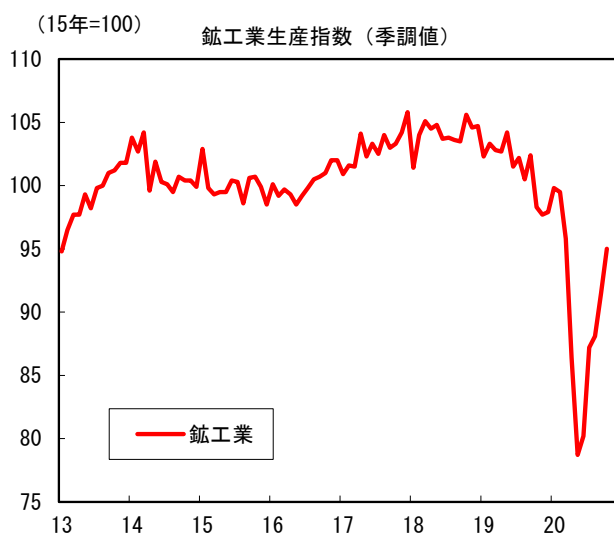
また、予測指数の上方バイアスを考慮した経済産業省の補正試算値は同+0.4%となった。11月も引き続き増産が予想されるものの、そのペースは10月から鈍化が予想されており、12月は減産に転じる見込みとなった。11月は、生産用機械工業や10月にマイナスに転じた電子部品・デバイス工業など8業種で増産が見込まれる一方、鋳工業生産をけん引してきた輸送機械工業などの減産が見込まれている。12月については挽回生産が一服することで、減産に転じることが見込まれている。11月を経済産業省の補正試算値、12月を製造工業予測指数の数値で延長すると、20年10-12月期は前期比+6.3%と7-9月期に引き続き高い伸びが予想されるものの、4-6月期の落ち込みを取り戻すには至らない見込みである。

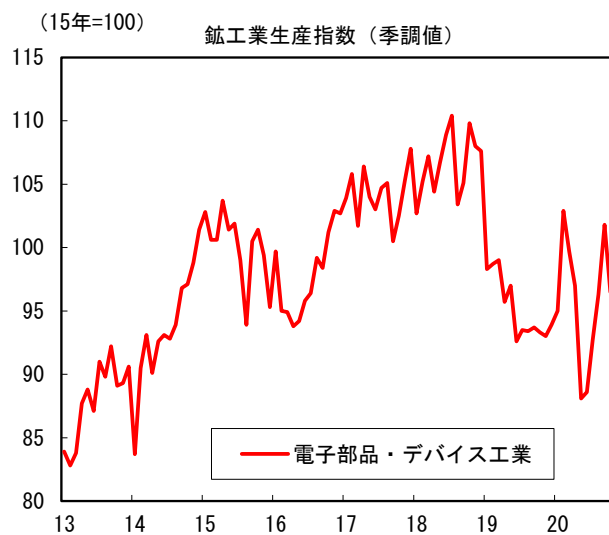
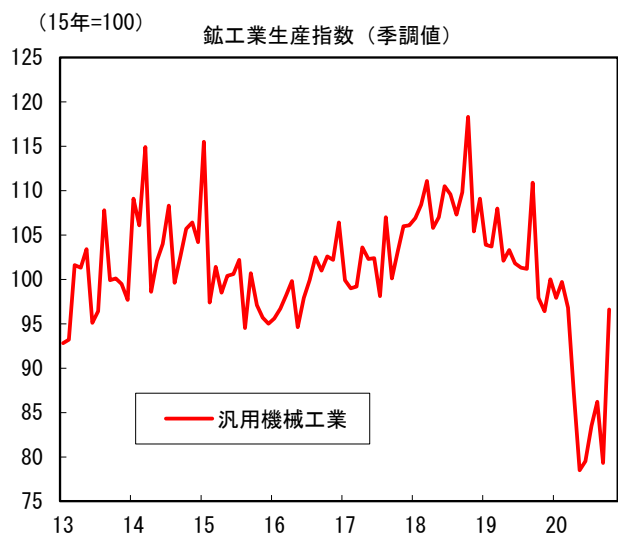
先行きについては、鋳工業生産の上昇基調は続くと思われるも、持ち直しのペースは鈍化していくことが見込まれる。これまでけん引役となってきた自動車において挽回生産が一服し始めていることから、今後は10月までのような高い伸びは見込み難い。また、国内外での新型コロナウイルス感染拡大が続くなど下振れリスクも残存し、先行き不透明感は依然として強い状況だ。

○財別の動向

財別では、個人消費関連、設備投資関連共に上昇が続いた。10月の消費財出荷は前月比+1.5%となり、20年1月とほぼ同水準となった。国内外での需要の回復から乗用車など耐久消費財出荷がけん引しており、耐久消費財出荷の水準は20年1月を+6%程度上回る水準となっている。

また、10月の資本財出荷（除く輸送用機械）は前月比+13.4%と高い伸びとなり、2か月連続の上昇となった。7-9月期の設備投資（GDPベース）は前期比▲3.4%と、企業業績の悪化に伴い設備投資の持ち直しが遅れているが、今後の回復が示唆される結果となった。もっとも、いち早く新型コロナを克服した中国や消費が堅調な米国向けの輸出などが牽引役となっている面もあり、国内の設備投資の持ち直しはあくまで緩やかなものにとどまる見込みである。





(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。